

『MM教育の実践ツールとしての「交通すごろく」』

【一般社団法人北海道開発技術センター 調査研究部
上席研究員 大井元揮】

私のこれまでのMM教育の経験としては、札幌市での「札幌らしい交通環境学習」の支援、当別町、恵庭市、旭川市、帯広市等での出前講座の実施、交通すごろくの企画・制作などに関わらせていただきました。

札幌市でのMM教育については、本メールマガジン(第6号・第13号・第20号・第27号)においても「教諭自らが実践する好事例」として紹介されていますので、本稿では、「交通すごろく」について、ご紹介させていただきます。

当センターで企画・制作した「交通すごろく」の最大の特徴としては、「ゴールした順位(早ければ良い)」と「排出したCO2量(少なければ良い)」の両方の順位から、総合的な順位を決定するものです。

すごろくですので、スタート地点からゴールを目指すものですが、ルールとしては、サイコロを振る前に、毎回、自分が利用する交通手段を選択し、そのカードを引きます。カードは、自動車、バス、鉄道、徒歩など、その地域に実在する交通機関を用意し、さらに、カード毎に、「自動車はサイコロを3個振ることができ、CO2排出量は10kg」、「バスはサイコロを2個振ることができ、CO2排出量は3kg」、「鉄道はサイコロを1個振ることができ、CO2排出量は1kg、線路を進める」、「徒歩はサイコロを1個振ることができ、CO2排出量は0kg」といった特性を持たせています。

つまり、自動車ばかりを使って、ゴールを目指すと、仮に早く到着したとしても、最終的にCO2排出量が多くなり、1位にはなれないといったこととなり、移動の速さや利便性と環境負荷との間に生じるジレンマを体験することが可能となります。

この交通すごろくを用いて、学校や地域イベント等で、実践したところ、子どもからは、「色々考えながらゴールを目指すので、面白い」、保護者からは、「自分の住んでいるまちの交通や施設等を学べて勉強になる」、教諭からは、「交通と環境の関係を学ぶ上で分かりやすいツール」といった評価をいただきました。

すごろくマップは対象とする地域毎で、オーダーメイドでの作成となりますが、オーダーメイドだからこそ、公共交通や環境に対しての教育効果が高いツールであると感じます。

もし、ご興味の方がおられましたら、これまで作成した資料等をご提供させていただきますので、ご連絡いただくと幸いです。